

榊原病院 Monthly

Vol.10
2015.October

独立行政法人 国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital
発行者 榊原病院企画課

院長

村上 優(むらかみ まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒

86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修。

2005年花巻病院臨床研究部長(併任)、2006年琉球病院長を経て、2014年榊原病院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。

NGOペシャワール会の会長として活躍。



診療科

- ・一般精神科
- ・アルコール・薬物依存症
専門外来
- ・こころのリスク外来

病床数 126床

- ・精神科病棟 108床
- ・医療観察法 18床
- ・認知症ユニット
- ・アルコール・薬物依存症ユニット

病院理念

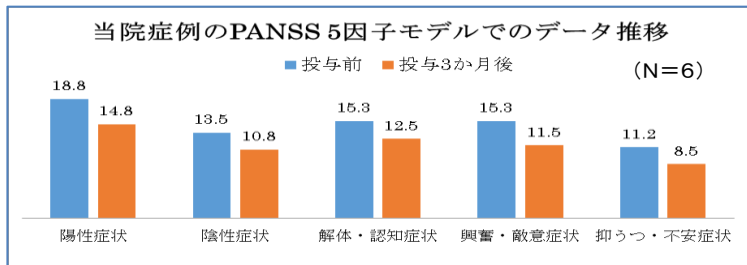
この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

〈クロザピン導入から1年〉

薬剤師 加藤 瑛一

当院がクロザピンによる治療を導入して、ちょうど1年が経過しようとしています。毎月、このMonthlyの裏面に状況を書かせていただいておりますが、当院でクロザピン治療を受けられた方が9月末で20名となりました。

(男性12名、女性8名。年齢23～52歳)



クロザピンは他の抗精神病薬で十分な治療を行うことができない治療抵抗性

統合失調症に対して有効性が示されている薬剤で、抗精神病薬の「切り札」と評されることもある薬です。治療効果に期待が持てる反面、重篤な副作用があったり、使用するための施設要件を満たすことが難しかったりと、制約の多い薬でもあります。薬剤的な効果だけでなく、クロザピンを導入することで病院の全体に変化が生じました。

副作用のモニタリングも兼ねたクリティカルパスは全導入例で使用され、パスの存在感が増しています。血液検査や副作用管理に関しても職員の関心は高まり、スキルアップをしたというスタッフの声も高まっています。また同じ系統の薬を1つだけに絞りシンプルな処方にする「単剤化」が最近注目されていますが、他の抗精神病薬の併用が禁忌となっているクロザピンは単剤化を進める上で大きな役割を果たしています。3年ほど前まではほぼ0%だった単剤化率も、現在では62%まで向上しており、処方面からわかりやすく、負担の少ない治療を目指すきっかけになっているのではないかと考えています。

厚生労働省の調査ではクロザピンによる治療が必要な方は全国で2.8万人ほどいると予測されていますが、実際にクロザピン治療を受けている方は3千人強と、まだまだ十分に普及していない治療であると考えています。

当院がクロザピン治療を三重県内に広めていける、中核的な病院として機能できるよう、紹介受入れ、病病連携等、ますます力を入れていくつもりです。

治療抵抗性かな、と思われる方が居られましたら、当院にご相談いただければ幸いです。

トピックス

行事・
出来ごと

- 統合失調症家族教室(7/13、27、8/24、9/14、10/5、19、27、11/9、全8回13:00～15:30)
- 平成27年1月より「禁煙外来」をはじめました。

教育・
研修

- 「包括的暴力防止プログラム(CVPPP)指導者養成研修」
平成27年11月24日(火)～27日(金)
- 寺子屋・榊原塾「今日の精神医学と医療」の開催のお知らせ
 - ・11月2日(月)17:30～19:00 テーマ:精神科看護
特別講師 下里誠二 信州大学教授
 - ・11月18日(水)17:30～19:00 テーマ:精神病理・精神療法
特別講師 酒井 崇 名古屋大学特任講師



榊原病院ホームページ
QRコード

地域医療連携室だより

<統合失調症 家族教室のお知らせ>

本年7月より11月にかけて、統合失調症をおもちの患者様のご家族を対象とした家族教室を8回シリーズで行います。前回の家族教室では、病気の知識と共に、病気とうまく付きあうための工夫や対処法を、参加されたご家族全員で学び合いました。また、ご家族同士の交流の場ともなり、気楽に病気の話ができて、和気あいあいとした雰囲気でした。家族教室への参加を希望される方は、地域医療連携室・外来までお問い合わせ下さい。

<図書ルームからのお知らせ>

患者様・ご家族様に、図書を通して病気や医療・福祉の情報を広く知っていただき、回復への志向・治療に取り組む意欲を高め、治療に参加し、治療者とのより良いコミュニケーションにつながればと考えています。

入院患者様は自由散歩の時間を利用して、ふらっと寄ってパラパラと見て帰る方、しっかりと読み込んで帰る方など様々です。



現在『こころの元気+』『統合失調症がやってきた』『ツレがうつになりまして。』『ボクのせいかも…お母さんがうつ病になったのー』『ニッポンの(薬物)依存』等を揃えています。一度、図書ルームをのぞいてみてください。開設時間：第2木曜日10時～11時



空床状況 **精神科病棟**
9月30日現在 **9床**

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

<クロザピンの治療状況>

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成27年9月までに全症例は20例となりました。9月の新規導入は1例でした。10月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

<認知症医療>

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状(BPSD)に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの方はご相談ください。

<アルコール・薬物依存医療>

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか。「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」(健康日本21)と言われております。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。4月から当院のアルコール・薬物依存症治療のプログラムをリニューアルしました。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

<こころのリスク外来>

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

<4月よりデイケアを拡大しました>

平成27年4月1日(水)から、デイケアの実施時間が午後半日のショートケアから、1日(9:30～15:30)のデイケアに変わりました。曜日についても、月・水の週2日から月・水・金の週3日に変わりました。

朝から参加するのは大変だという声もありますが、朝から起きて活動する場所として活用して頂きたいと思っております。昼食づくり等の新しいプログラムも行います。

参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。

主な内容： 統合失調症疾患教育、スポーツ、昼食づくり、カラオケ など



榊原は自然がいっぱい！
お話しながら歩きますか？



大人気のクッキング教室で、
カレーライスを作りました。